

全 国 水 土 里 ネット 会 長 賞

1. 事業概要

参加団体名：水土里ネット名田周辺（和歌山県）
表彰地区名：名田地区
事業名等：畑地帯総合整備事業担い手育成型（H9～H20）
主要工事：農道整備工、区画整理工、かんがい排水工

2. 推薦理由

当地域は県下有数のそ菜・花卉類を生産する畑地地帯である。近年、施設園芸が盛んで、生産の団地化につとめ、生産組織の充実と出荷体制の確立を図り安定した銘柄産地の形成を目指している。

また労働配分を考慮した栽培形態を組み、より優れた農産物の生産に意欲的に取り組んでいる。

しかしながら、当該地区は基盤整備が遅れ営農に支障を来している現状であったが、本事業の実施により農地の有効利用が図られるとともに、用水の安定確保、各ほ場への農作業の利便性が図られ、生産性向上の効果が発現され、ひいては担い手農家の確保、育成につながっている。

事業実施に際し、土地改良区を中心として地元がまとまり、また、事業に対して受益農家の熱意が感じられ、その結果として事業工期限内に完成できたといえる。最近、受益地内の農地に青年男性及び女性の営農する姿がよく見受けられると伴に、地域に幼児、子供が多く遊んでいる姿も見受けられるなど、地域に勢いが感じられる。

3. 受益地区における農家及び担い手の状況

（1）受益地区における農家数の状況

区 分	事業実施前	現 在
総農家数	370 戸（ 85 戸）	356 戸（ 118 戸）
うち専業農家数	200 戸（ 85 戸）	200 戸（ 118 戸）
うち兼業農家数	170 戸（ 0 戸）	156 戸（ 0 戸）
認定農業者	85 人	118 人
生産組織等（法人含む）	0 組織	0 組織

※（ ）内の戸数は、担い手農家数

(2) 農用地の流動化状況

項目	事業実施前	現在	目標
受益面積	275 ha	267.0 ha	
担い手等の利用集積面積	65.2 ha	73.7 ha	80.0 ha
①利用権設定面積	0 ha	0 ha	0 ha
②受託面積	1.1 ha	3.2 ha	6.5 ha

4. 農業経営状況

区分 作物名	事業実施前 (10 a 当たり)			現在 (10 a 当たり)		
	労働時間	反 収	生産費	労働時間	反 収	生産費(円)
サヤエンドウ	800 hr	850 kg	352 千円	778 hr	900 kg	298 千円
ウスイエンドウ	396	920 kg	249	376	1,000 kg	188
宿根かすみ草	815	45,000本	2,033	765	55,000本	1,899
スターチス	820	85,000本	3,126	742	90,000本	2,605

区分 作物名	作付面積の推移		
	事業実施前	現在	目標
スイカ	118 ha (32 ha)	76 ha (30 ha)	76 ha (30 ha)
サヤエンドウ	118 ha (32 ha)	76 ha (30 ha)	76 ha (30 ha)
花卉	164 ha (44 ha)	199 ha (65 ha)	199 ha (65 ha)
温州ミカン	7 ha (0 ha)	0 ha (0 ha)	0 ha (0 ha)
計	407 ha (108 ha)	351 ha (125 ha)	351 ha (125 ha)
土地利用率	148%	131%	131%

※ (ha) は、担い手農家等の作付面積

5. 営農推進の状況について

(1) 栽培技術関係

以前は、簡易的なパイプハウスが中心であったが、事業の進行と共に重装備のハウスの建設が進み、作物の長期栽培が可能となった。また、当地区は台風の被害の多い地域であるが、この施設により台風の影響が少なくなり、安定した計画的な栽培が可能となった。灌水においても、点滴かんがいが多く行われるようになり、無効水の少ない効率の良いかんがいが出来ようになり、それに伴い節水となり環境への負荷も減少すると共に土地改良区の維持管理負担も軽減されることとなった。

(2) 転作関係の状況

①整備後の転作の状況（現況）

・転作面積 75.8ha（事業実施前の転作面積75.8ha）事業実施前にほとんど畑地化された。

②転作作物名と作付面積

・作物名：スターチス（9.2ha）

③転作や新規作物の導入にあたって、特にPRすることがあれば記載願います。

区画整備を実施し、低コスト耐候性ハウスの導入により、施設園芸が盛んになり、花卉の生産品目（ガーベラ、バラ、トルコキキョウ等）が増加した。

(3) 農産物の加工、流通、販売などに向けた取り組み

後継者も多く、花卉の流通は、共同出荷を中心として、一部に個人に出荷をしている農家もあるなど、独自性をもった販路拡大に取り組んでいる。

また、地区内に個人経営の直販施設が2店舗あり、いちご、メロン、花卉等の収穫体験等も行っている。

6. 環境に配慮した取り組み

樹園地を畑に区画整理した上野2工区において、カスミサンショウウオの産卵地があったため、専門家の指導により地元の施工でビオトープの設置を行い産卵地を移転した。現在は、改良区が中心となり、年2回の草刈り等、維持管理を行っている。

また、幹線農道の切土法面保護については、環境に配慮して植生による緑化を行うと伴に、草刈り等の維持管理作業の軽減を図る目的で、県産品の間伐材を法面に設置する丸太伏工を施工した。

7. その他事業実施の効果による新たな取り組み

①余剰労働力の活用方法について

遊休農地を利用した取り組みで、地区の有志によりサツマイモを焼酎の原料として生産し地域のブランドとして販売する取り組みを行っている。

遊休農地を利用して、規模拡大のため花卉の栽培を行うなど農地の流動化が図られている。

②新たな雇用の場の創出

上記以外の、直売目的のみの直売所も1店舗出来るなど、作物の安定生産に伴う販路拡大による雇用の場の創出が期待できる。

③その他

魅力ある農業・農家を目指して、調和のある生活営農設計の樹立、適正な労働時間、健康管理を考えた作業環境づくりを推進するとともに、所得目標（一戸当り）を850万円、主たる従事者一人当たり年間総労働時間を2000時間程度に効率かつ安定的な農業経営を営む農家設定をしている。

8. 行政や関係者が「事業計画、施工、利活用など」において苦勞した点

・本事業のかんがい排水は、旧幹線配水管の更新的要素が高く、施行した幹線配水管と既設支線配水管との接続について、地区及び改良区との協議に時間を要したが、結果として、幹線配水管の完成した工区から円滑に切替ることができ、漏水等を未然に防ぎ、効果の早期発現ができた。

・事業主体としては、6箇所の区画整理施工時の集中豪雨に伴う、地区外へ泥水及び土砂の流出を防ぐため、工事時に簡易な沈砂池を数多く設置するなどの対策を行った。

・区画整理の換地について、地元関係者の自主性及び進捗を円滑に行うため、換地業務を名田周辺土地改良区に委託したことから6箇所の換地業務が円滑に施行できた。

・地元との連携を密に事業を施行してきた為、地域住民の事業への関心が高く、特に地元後継者の営農意欲が高まったと感じられる。

9. 周辺地域への波及効果及び将来の展望

・今回の区画整理に伴う農地の集約化に伴い、施設栽培が可能になり農業経営が安定しているなど効果が発現しているため、区画整理への関心が高まった。

・労働時間の短縮ができ、周辺地域の遊休地を利用した、新たな取り組み及び営農規模拡大などが加速すると考える。

◆農道整備工



施工前



施工後

◆区画整理工



施工前



施工後

◆営農状況



ハウス団地の模様



産地直売所

◆環境整備



地元住民参加の直営施工によるビオトープの設置



カスミサンショウウオ

